

第5回地域連携発表会—学びが拓く地域の未来— 開催報告

平成30年3月7日（水）、大阪市立総合生涯学習センターにて、「第5回地域連携発表会—学びが拓く地域の未来—」を開催しました。今回は初めて会場をキャンパス外に移した梅田での開催となり、大阪市の行政関係者や各種団体・大学関係者など、100名以上の参加がありました。

教員による事例発表、発表者との交流会、学生によるポスター発表および表彰のほか、大阪市教育委員会事務局・大阪市立総合生涯学習センターとの共催により、生涯学習をテーマとしたミニフォーラムを開催しました。さまざまな形での大学と地域の連携のあり方や、これからの社会における生涯の学びやその支援について、多くの方が意見を交わし、考える機会となりました。



◆教員による地域連携事例発表

事例1	津波浸水区域外での災害時避難所確保計画検討ワーキングでの取り組みについて
発表者	原 忠義（港区協働まちづくり推進課長）・三島 正己（同課長代理）※港区筋原区长欠席のため代理 重松 孝昌（工学研究科 教授）、瀧澤 重志（工学研究科 准教授）
内容	本学と大阪市が締結した基本協定にもとづくスタートアップ支援事業の取り組みについて、連携先の大阪市（此花・港・大正・西淀川・住之江区、危機管理室）を代表して、港区担当者より計画の概要が説明されました。各教員からは、南海トラフ地震で想定される浸水被害区域や避難シミュレーションなど、各研究分野の成果等について解説しました。
事例2	中小企業をテーマとしたエデュテイメント的活動
発表者	本多 哲夫（経営学研究科 教授）
内容	地元企業見学イベントへのゼミでのサポート、中小企業経営者勉強会への学生の参加、調査研究をもとに書いた脚本による学生演劇など、教育研究活動として地域で行っているユニークな取り組みとその課題について報告しました。
事例3	文学部の教育資源の開放を通じた地域の観光活性への貢献—『大阪文化ガイド+講座』の取り組みについて—
発表者	天野 景太（文学研究科 准教授）
内容	地域観光ガイド養成の必要性やそのための大学資源の開放などの背景について解説があり、本学で開講している観光ボランティアガイドのスキルアップのための履修プログラムについて紹介しました。



◆ミニフォーラム『人生100年時代の生涯学習の可能性』

大学や生涯学習センターにて現在実施している事業等について紹介したのち、これからの社会においてそれぞれが果たせる役割や連携による可能性についてディスカッションを行いました。

登壇者：松村 智志（大阪市教育委員会事務局 生涯学習担当課長）

土橋 ひとみ（大阪市立総合生涯学習センター所長）

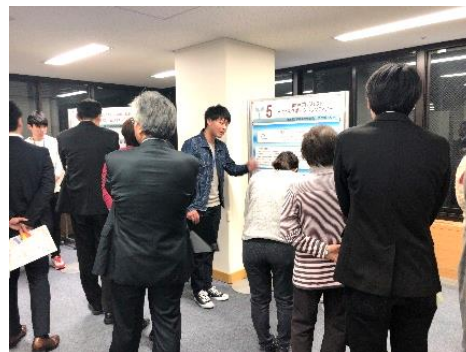
宮野 道雄（大阪市立大学 地域連携センター所長）

ファシリテーター：林 久善（大阪市立大学 社会連携課長）

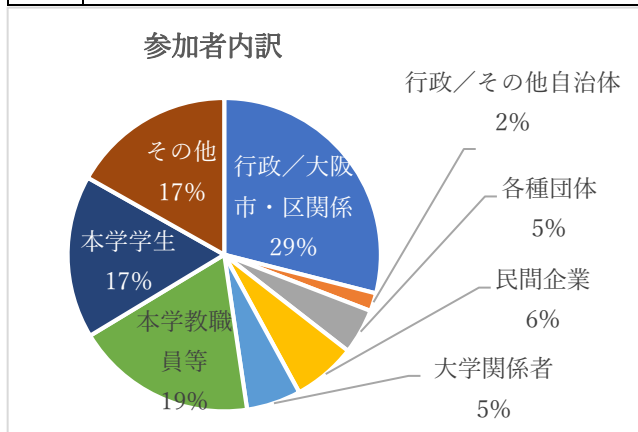
◆学生・院生による地域連携に関するポスター発表／発表者との交流会

過去最多となる 10 チームが参加し、研究やサークル・団体での活動など、文理幅広い分野にわたる発表がありました。優秀な発表を行った学生には表彰が行われ、地域連携センター所長賞には北口真穂さん、副所長賞には柳淳也さん・井上雅也さんのチームと高田勝子さんが選ばれました。

発表者と参加者による交流会では、事例発表の内容についての質問や、今後の取り組みの参考とするための意見交換など、熱心に教員と語り合い交流する様子が見られました。



1.	副所長賞 <わたし>の問題としての性の多様性教育—関西の教育現場における、クリア・ペダゴジーの実践と効果検証—	柳 淳也(経営学研究科後期博士課程1年)、井上 雅也(法学部3年)／にじいろらいと
2.	大阪市立大学 Hijicho 住吉かかしプロジェクト	加藤 菜々子(経済学部2年)、行田 美希(文学部2年)／大阪市立大学新聞 Hijicho
3.	副所長賞 ホームステイにおけるホストファミリーの健康管理意識	高田 勝子(医学研究科修士課程2年)
4.	RENOVATION の町 甦る大正区 ～“ヨリドコ大正メイキン”プロジェクト～	高砂 篤、土居 和樹 (工学研究科修士課程1年)
5.	舞洲プロジェクト～学生スポーツボランティア～	大平 航暉(経済学部1年)
6.	所長賞 東大阪市内の小・中学校を核とした保護者食育講座—地域と連携した食育に向けて—	北口 真穂 (生活科学研究科修士課程1年)
7.	大学の新たな連携先としての社会福祉法人の可能性の考察—野のはなハウスを事例として—	妹尾 亮汰(商学部3年)
8.	なぜ、衰退する中小企業は生き残れるのか—柏原市の中小ワイナリーの地域ブランディングを例に—	大槻 慶子(商学部3年)、渡邊 壮一郎(商学部3年)
9.	地域住民に対する1次救命処置講習会の開催報告	永澤 佳奈(医学部医学科3年) ／ライフサポートクラブ
10.	SSH 指定校との高大連携を通じた双方向的な人材育成への取り組み～高校化学グランドコンテストへの出場を目指して～	松本 充央(理学研究科後期博士課程1年)



▲ポスター発表に参加した学生と荒川学長、審査員の先生方

<参加者アンケートより(抜粋)>

- ・大学の地域連携の取り組みや学生の活躍を理解することができ、大変参考になりました。
- ・大学(市大)の資源をもっと有効利用できる方法を検討してほしい。
- ・高度な知識や研究成果を、市民生活にフィードバックしていただける機会をさらに広げていただけるとありがたいと思います。
- ・学習から縁遠い人の学びの場として大学がもっと開かれていくと裾野が広がって、ボランティア意識の育成につながると思います。